

パリのエラスムス、エラスムスのパリ

山口 信夫

エラスムスがパリに住んだ時期は、1495年9月初旬から1511年6月11日までの5年9ヶ月の間の約4年半ほどである。イギリスには5年強、ルーヴアンには3年、イタリアには3年、バーゼルには10年あまり、フライブルクには6年あまりの滞在に比べ、とくに長かったとはいえない。また、パリは彼の修業時代であったために主要著作が出版されたわけでもない。それにもかかわらず、パリがエラスムスに与えた影響はどのようなものか。パリはエラスムスの思想形成にいかなる位置を占めるのだろうか。様々な思想家がパリで学び、そこで著作を発表し、様々な人々と出会った。パリが思想家にいかなる機会、影響、運命を与えたかを考察する一環として、パリがエラスムスに何を与えたかを検討した。

＜パリのエラスムス＞とは、パリにおけるエラスムスの活動、事績であり、＜エラスムスのパリ＞とはパリが彼に与えた影響、パリを主人公とするパリの思想創成機能である。

このような研究の端緒として、パリでのエラスムスの事績をまとめてみた。

エラスムスのパリ滞在年表¹

年代	エラスムスの事績	その他
1495	*9月初旬、エラスムス、パリ到着、スタンドンクが運営するコレージュ・モンテギユに入学。 *ガガンとアンドレリーニとの最初の出会 い。ガガンの著作、 <i>De Origine et Gestis Francorum Compendium</i> (Paris, Le Dru, 30 septembre 1495) についての著者宛の長い書簡は、この作品の最後に付せられ印刷された。エラスムスの最初の印刷物。	*1483年にフランス王となったシャルル7世が1491年、アンヌ・ド・ブルターニュ Anne de Bretagne と結婚。1494年、イタリア戦争。Aldo Manuzio アルド・マヌティオがヴェネチアに印刷所を開始。ラブレー Rabelais の誕生。 *9月、ガガン、 <i>Compendium</i>

¹ この年表は、*Erasmus et Paris, Exposition organisée avec le concours de la Bibliothèque Nationale, Institut néerlandais, 12 déc. 1969 - 18 janv. 1970.* を中心にし、その他の著作の年表類を参考にまとめたものである。

	<p>(Ep.45)。 *10月、『反蛮族論』の原稿をガガンに送り、好意的な批評を受け取る。 *スタンドンクの聖書講義を受講。 *聖ジュヌヴィエーヴ修道院で説教。</p>	<p>の出版、chez Pierre Le Dru.</p>
1496	<p>*1月(?)、オランダとパリで書いた詩集をドニデル書店 chez Denidel (コレージュ・コクレ前にあった) から出版。そのうちに <i>Carmen de casa natalitia Iesu</i>. 「イエス誕生の藁葺き小屋」を含む。 *病気になったエラスムスの回復ははかばかしくなかった。モンテギユの厳しい四旬節、エラスムスはそれに耐えられなかった。 *夏、エラスムスはパリを離れ、健康回復のためにカンブレの司教のもとに、さらにステインにゆく。(そこからウィレム・ヘルマンス Willem Hermans の詩を持ち出し、1497年、chez Guy Marchant で出版。 *9月13日以前、エラスムスはパリに帰還、モンテギユにもどらないで、神学博士取得をめざす。金持ちのイギリス牧師の教師になることを拒絶し、研究に専念。しかしどこで何によって生活していたのか? *年末、雨が多く、パリに洪水。</p>	<p>*Saint Michel の数日前、Jean Standonck が l'abbaye de Château-Landon の改革のために、la Congrégation de Windesheim に依頼していた Jean Monbaer がパリに到着。 *10月24日、ルフェーヴル・デタープルは『論理学入門』を出版、Introduction à la Logique.</p>
1497	<p>*1月、医者による医療によらず、「聖ジュヌヴィエーヴだけ」のおかげで、四日熱からの快癒。12日、洪水と大雨が止まることを祈願して聖ジュヌヴィエーヴの聖遺物箱のノートルダムへの行列に立ち会う。 *1月20日、Willem Hermans の Sylua odarum 『抒情詩集』の出版、chez Guy Marchant (エラスムス編集)。ヘンドリック・ヴァン・ベルヘンに一部、送付。彼に神学の勉学をしていることを告げるが、身体的にも金銭的にも疲れ果てていた。Sylua odarum の大学での成功(Ep,50,51)。 *2月、エラスムス、かろうじて回復。シ</p>	<p>*メランヒトンとハンス・ホルバインの誕生。サヴォナローラの破門。 *4月12日、ルフェーヴル・デタープルの『アリストテレス倫理学論集』校訂版の出版。 5月、<i>De influentis syderum et querela Parrihisienis pauimenti</i> de Fausto Andrelini chez Guy Merchant avec dédicace à Budé. *10月20日、Cornelle Gérard が l'abbay de Sanite Victor の改</p>

	<p>ヤトー・ランドンでのモンバールの改革 Monbaer à Château Landun に従う。</p> <p>*春、エラスムスは彼の生徒のトーマス・グレイ、ロバート・フィッシャーとともに、Normande Antoinette 宅に下宿。彼の生徒には他に、ハインリッヒとクリスティアン・ノルトホーフたちがいたが、彼らは彼らの教師アウグスティヌス＝ヴィンセンティウス・カミナドゥス宅に住んでいた。</p> <p>(エラスムスは彼らのために、『格言集』Colloques の素描に当たる会話マニュアルを作成した。)</p> <p>*7月、トーマス・グレイ、ロバート・フィッシャーの保護者にグレイとの関係を疑われたエラスムスは、彼らから離れるように命ぜられ、ハインリッヒ・ノルトホーフ、カミナドゥスとともに暮らす。(クリスティアンはリュウベックにもどった)。</p>	<p>革のためにパリに到着。</p>
1498	<p>*1月、聖ヒエロニムスとヴァラ Dialectica の精読。</p> <p>*2月、ハインリッヒ・ノルトホーフのリュウベックへの出発のあと、エラスムスとかカミナドゥスはリュウベックの若い学生と共に暮らす。</p> <p>*2,3月、『書簡作成法』De conscribendis epistolis について研鑽。</p> <p>*春の間、エラスムス、重病。聖書研究に専心しようと望んだが、もはや修道院には耐えられなかった。彼はイタリアに行き、神学博士を取得し喜んでローマを訪問したかったが、その力も手段もなかった。</p> <p>*四旬節の間：l'abbaye Livry の再興に関する講演会に聖堂会参事の Emery, N. de Hacqueville らと行く。</p> <p>*春の終わり：エラスムスはパリを離れ、カンブレ、オランダ(ステイン)、ブリュッセルに行き、夏の一部を過ごす。</p>	<p>*5月、シャルル8世の死。ルイ12世の即位。サヴォナローラの死。デューラーの『アポカリプス』。</p> <p>*3月31日：ガガンの Compendium の再版。</p> <p>* Echec de la mission hollandaise de Windesheim à Saint-Victor.</p> <p>*8月：Départ des Hollanndais.</p> <p>* Edition de la Correspondance de Gagain chez Durand Gerlier.</p>

	<p>*7月の終わりにパリに戻る。すぐさま病気になる。</p> <p>*もどってから、マウントジョイ卿、ブラウント Blount を生徒とする。</p> <p>*一つの部屋に住み、そこでマウントジョイとリュベックの学生に講義をし、その学生たちと共に暮らしていた。自分の書き物に関してカミナドゥスとうまく行かなくなった。ヤコブ・バットによるアンナ・ヴァン・ボルセーレ Anna von Borssele (Anne de Veere) との仲立ちが解消されたあと、Tournehem (entre Calais et Saint-Omer) に彼の生徒と共に行くつもりであった。</p> <p>*12月：エラスムス、マウントジョイ宅に居住。(カミナドゥスはすでに彼から離れていた) 待遇がよかったので、金には困らなかった。パリでは評判がいいことは知っていたが、オランダで自分が批判されていたので気を落とした。ファウスト・アンドレリーニは、自身でウィレム・ヘルマンズにエラスムスを弁護した。</p> <p>*12月の終わりあるいは1499年1月：Tournehem とさらにステインへの旅行。</p>	
1499	<p>*Tournehem に希望を託してパリに戻る。Adolphe de Veere のために、Epistola exhortatoria ad capessendam virtutem を書くが、つねに金の心配があった。De conscribendis を手直しし、学生用の概説を編集した。</p> <p>*Anne de Veere あるいは Mountjoy とイタリア行きと8月の出発を希望した。</p> <p>*5月：エラスムスは Mountjoy とともにパリとイギリスに行く。</p>	<p>*ルイ12世はアンヌ・ブルターニュと結婚。イタリア戦争。</p> <p>*5月8日：Brant の Stultifera navis 『阿呆船』がラテン語版ではじめてパリで刊行。 (Narrenschiff, Nürberg, P.Wagner, 1494)</p> <p>*6月10日：ヤン・スタンドンクは追放され、モンテギュを Jean Mair と Noël Béda に託す。</p> <p>*夏：ジョス・バードがパリに定住。</p>

<p>1500</p>	<p>*2月2日：パリに帰還。一文ももっていなかった。Douvres の税関が彼のほとんどの金を押収し、クレルモンで途上で追い剥ぎに身ぐるみをはがれた。</p> <p>*帰還以来、病気で、エラスムスは彼に勉学を禁じたギヨーム・コップ(Guillaume de Cop, Wilhelm Kopp)の治療を受けた。</p> <p>*春：医師の意見を聞かず、Adages を執筆。授業料が払えないので、「ギリシア文学」を自修。</p> <p>*6月の終わり頃：『格言集』(初版)の出版。Chex Philippi。カミナドゥスがこれを大学で紹介、はじめての成功。しかしペストがパリに流行。大学に人が少なくなる。エラスムスは落胆、死の恐怖を懐く。</p> <p>*9月初旬：エラスムスはペストのためにパリを離れ、オルレアンに行く。まずカミナドゥス、彼の生徒たちと共に暮らしたが、その一人が病気になり、エラスムスは Jacob de Voecht の所に移り住む。カミナドゥスと仲違いをした。</p> <p>*ヘンドリック・ヴァン・ベルヘンが彼のパリでの生活を調べさせていることを知る。</p> <p>*オルレアン滞在中、『格言集』の材料をさがしており、De conscribendis epistolis の改善を図っていた。</p> <p>*12月15日頃：オルレアンからパリへの帰還、カミナドゥス宅に寄宿。</p> <p>*1500年—1501年の冬：経済状態の悪化。Batte や Anne de Verre, Henri et Antoine de Bergen への手紙。</p> <p>*De conscribendis, De copia の執筆継続。Georges Hermonyme とギリシア語の受講。</p> <p>*春、キケロの De officiis の版を作成し、chez Philippe で印刷した(4月29日、</p>	<p>*カール5世の誕生。ベンヴェヌート・チェリーニの誕生。</p> <p>*2月8日：La Neff de fous が S. Rivière の仏訳で再版。</p> <p>*6月：ヤン・スタンドンクのパリ帰還。</p>
-------------	---	---

	<p>Jacques Voecht への献辞書簡)。 *エラスムスはつねに、ヒエロニムスを研究。Anne de Veere にはもはや何も期待しなくなった。</p>	
1501	<p>*4月の終わりから5月の初めにかけてペストの猛威。「繰り返される埋葬」にエラスムスは恐れを感じる。パリを離れ、3年以上、留守にし、Steyn, Tournehem, Saint-Omer に居住。Jean Vitrier との出会い、さらに Courtebourne, Louvain に居住。</p>	<p>*5月：Bruno et Basile Amerbach がパリ大学に来る。 *5月22日：ガガンの死。 *10月28日：ルフェーヴル・デタープルの Organon 第1部の出版。 *1502年6月：ヤン・バットの死。 *1502年12月終わり：ヤン・モンパールの死。 *1503年8月12日：アレキサンドル6世の死。 *11月1日：ユリウス2世、教皇に即位。</p>
1504-1505	<p>*1504年12月：エラスムス、パリに帰還。Christophe Fischer 宅に寄宿。文学研究をやめ、「聖典」の研究に向かう。 *1504年3,4月：クリストフ・フィッシャーに捧げられたローレンゾ・ヴァラの Annotationes をジョス・バードから出版。4月13日に販売。エラスムスは『格言集』第2版を準備、夏に chex Philippi で印刷。エラスムスははじめて、パリで快適に暮らすことができる。 *夏あるいは秋：エラスムスはパリを離れイギリスに行く。</p>	<p>8月5日：ルフェーヴル・デタープルによるアリストテレスの『政治学』の出版。 1505年：ルター、修道院に入る。</p>
1506	<p>*6,7月：エラスムスはイタリアに向かう途中で、ボエリオの子どもたち、彼らの家庭教師と共にパリに立ち寄ったとき、彼が死んでいると思っていたフランスの友人と会い、喜んだ。イタリア旅行の準備中、エラスムスはルキアノスの『対話』：De mercede conductis と L'Alexandre</p>	<p>*1506年：フィリップ・ルボーの死。ロイヒリンの Rudimenta liguae hebraicae の出版。レオナルド・ダヴィンチ、『ジョコンダ』の制作。ブラマンテ、ローマのサンピエトロ大聖堂の建築開始。</p>

	<p><i>psedomantis</i> を翻訳。</p> <p>* ジョス・バードは彼の依頼によりエラスムスが補正した『格言集』の再版を準備。</p> <p>* 9月13日：ジョス・バードからラテン語訳、エウリピデスの『ヘクバ』と『イフゲニア』の刊行。</p> <p>* 11月：ジョス・バードからルキアノスの『小品集』<i>Opuscula</i> (エラスムスとモアの共訳) の刊行、11月13日、販売。</p>	<p>* 1507年：ミシェル・ロピタルの誕生。</p> <p>* デューラーの『アダムとイヴ』</p> <p>* 1508・1512年：ミケランジェロ、『システィナ礼拝堂天上画』。</p> <p>* 1509年：ヘンリー8世がイギリス王に即位。Cathrine d'Aragon と結婚。カルヴァン、ミシェル・セルヴェ、エティエンヌ・ドレの誕生。</p> <p>* ルフェーヴル・デターブルの <i>Quintuplex Psalterium</i></p> <p>1510年：ルター、ローマに。</p>
1511	<p>* 4月初め：イギリスからパリに到着。ジョス・バードが『格言集』の新版を準備するが、出版されない。</p> <p>* 6月：『痴愚神礼賛』がトーマス・モアに捧げられ、<i>Chez Gilles de Gourmont et Jean Petit</i> で印刷。</p> <p>* 6月15日頃：エラスムスはパリを発ち、もはやもどることはない。</p>	<p>* ルター、ヴィッテンベルク修道院長。</p>



エラスムスのヨーロッパ *Collected Works of Erasmus, 13 Letters 1802-1925*,
 University of Toronto Press, (Toronto/Buffalo/London), 2010.